

留学した動機、 留学の長所・短所

2016年冬季海外大学院留学説明会@東京大学

パネルセッショントピック 1

進行: 児玉真希 (Rice History Ph.D. Graduate Student)

なぜ留学をしたのか？

その前に、人文系の人どのくらいいますか？

人文系(Humanities Departments)で学位留学をする人はあまり多くない印象
理由：

- ①そもそも人数が少ない
- ②言語の壁が厚い
- ③長期化する可能性を避ける etc.

留学を選んだ動機

- ①アメリカの大学院プログラムに魅力を感じた
→研究者としての基盤を作ってくれる

- ②お金を貰いながら勉強できる
→学費免除+生活費がでる

- ③同じ研究をしている教授陣、仲間がいる
→議論が盛んで、研究を広げてくれる

①プログラムについて

❖Q: 人文系の大学院生ってどのくらい忙しいんですか？

A: 2年間の授業、1学期3つ授業を履修

基本、各授業につき1冊（毎週1000ページ以上！）

読んだ本についてレポートを書く（2-3ページほど）

+

ディスカッションリーダー、プレゼンテーション、ショートペーパーなど

+

期末ペーパー3本（1本が15-20ページ）

★ちなみに今学期読んだ本の数は約50冊、論文は約20本ぐらい？

①プログラムについて

❖Q:コースワーク後は？

A:Comprehensive Exam を合格したら、やっと自分の研究ができる！

Comprehensive Examとは

3つのフィールドの研究史を試験、各フィールド約100冊

3 Written Exams + Oral Exam (45 min.)

❖ここまで徹底的に研究史をすることによって独創的な研究ができる

❖社会科学系、理系のプログラムと比較して、多読、速読の能力が必要とされる

②お金貰いながら勉強できる

❖Q:いくら貰ってるのですか？

A:学費免除

生活費：\$ 1,700 × 12か月 + 学会参加費、調査旅行費
を5年間もらえる

★その他にも資料購入、Interlibrary Loanなど使い放題

❖研究に専念できる環境が整っている

③教授陣、仲間がいる

❖1を聞けば10かえってくる教授陣が大勢いる

→指導教員以外のとも交流が盛ん、日本でいう師弟関係ではない

❖互いの研究を把握している仲間

→文献や資料を共有したり、研究の相談ができる

❖同じ奨学金を貰っているため、いがみ合いが少ない

留学の長所（まとめ）

- ❖ プログラムを通じて研究者としての基盤できる
- ❖ 研究環境が整っている（金銭的援助、情報量、精神的サポートなど）
- ❖ 最先端の研究ができる
- ❖ 学位取得後の選択肢が広がる

もちろんつらいことも多い、、、

- ❖ コミュニケーションがうまくいかない
- ❖ 業績やパフォーマンスが悪いとKick out!の可能性がある
- ❖ 日本が恋しくなる(家族、友達、食事etc.)
- ❖ 将来どうするか、日本で就職、アメリカで就職、アカデミアか、民間か

終わりに

- ❖ 研究者として必要な素質を養える。必要に感じたら、行くべき
- ❖ 自分が考えている以上の世界が広がっている

I shall be telling this with a sigh
Somewhere ages and ages hence:
Two roads diverged in a wood, and I—
I took the one less traveled by,
And that has made all the difference.
(*The Road not Taken*, Robert Frost, 1920)